

## 平成28年度学校評価実施計画

<b>学校名</b>	<b>大分県立新生支援学校</b>
------------	-------------------

<b>前年度評価結果の概要</b>	<p>○ 指導の手引き作成では学部縦割りグループを設定し、自分が所属していない学部の考え方を知るとともに所属学部としてどのように考えるかを視点としたことにより、小中高一貫した指導内容を強く意識して完成させた。次年度は、授業実践をとおして年間指導計画への更なる反映と指導の手引きの修正といったPDCAサイクルで取り組む必要がある。</p> <p>○ 研修をとおして合理的配慮について共通理解をした上で参観日、家庭訪問、学年通信、連絡帳等、あらゆる機会をとおして指導の手だてを保護者へ伝えたことにより、個別の指導計画の手だて欄が常に合理的配慮を意識した記述となった。今後は、より具体的な手だてを記述するとともに評価の二期制における個別の指導計画の様式検討及び質的充実が必要である。</p> <p>○ 各学部とも目標及び取組内容を視覚化したことで日常的に体力向上への取り組みが行えた。このことにより、日頃の学習等においても持続面、体力面等での向上がみられた。また、肥満防止へも取り組み、養護教諭、担任、家庭が連携して行えるようになってきた。次年度は、継続して取り組むことで健康増進を一層図っていく必要があると考える。</p> <p>○ 災害緊急時を想定し、保護者への引渡しマニュアルの見直し及び訓練を実施した。また、地域と連携した防災への取り組みを始めた。引き続き、地域との連携のあり方を検討する必要がある。</p> <p>○ 3人程度の小グループにおける授業研究会(一人一実践)では、「授業改善チェックシート」の活用により視点を持った授業改善が行えた。次年度は、効果的なチームティーチングに視点をおいた授業改善を考える必要がある。</p>
-------------------	---

学校教育目標	中期目標	重点目標
人間尊重の精神を基調とし、一人一人の教育的ニーズに応じた教育を行い、能力や適性を最大限に伸ばし、調和のとれた人格と「生きる力」をはぐくみ、社会参加と自立を目指す人間を育成する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 個別の教育支援計画のニーズを踏まえ、個別の指導計画による教育の推進を行い、一人一人に応じた社会参加・自立をめざす。</li> <li>2 障がいや重度化・多様化している児童生徒の実態に的確に対応できるよう研究・研修に努める。</li> <li>3 安全・安心な教育環境の整備・改善に努めるとともに安全教育の充実を図る。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新時代を生きる児童生徒の一貫教育の充実</li> <li>○ チームティーチングによる複数児童生徒の効果的な実践</li> <li>○ 一人一人の児童生徒の実態やニーズに応じた健康・安全・衛生の取り組みの強化</li> </ul>

※ PL: プロジェクトリーダー、SL: サブリーダー

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL		
<b>1 新時代を生きる児童生徒の一貫教育の充実</b> a 「指導の手引き」を活用した年間指導計画の見直し・改善 b 評価の二期制を活用した個別の指導計画の質的充実	a 全指導の形態の「年間指導計画立案」の見直し改善及び手引きへの加筆(1月末) b 「個別の指導計画」関連設問の保護者満足度前年度比UP	○指導の手引きに照らし合わせた年間指導計画及び題材の見直しを行う。 ○各指導の形態相互の関係「ヨコのつながり」を検討しつつ年間指導計画の単元及び題材配列を整理する。	○27年度と同じメンバーを中心として指導の形態グループを編成し、現年間指導計画の単元及び題材を7月までに検討及び見直しを行う。 ○9月までに指導の形態グループ代表者による「ヨコのつながり」の検討を行い、1月末までに各学部・学年の年間指導計画の整理及び作成をする。併せて、指導の形態グループで指導の手引きの加筆修正を実施する。	PL: 教務主任 SL: 教務副主任		
		○評価の二期制による個別の指導計画の効果的な活用方法について検討する。			○実態分析→目標設定→手だての見直しと改善といった流れを定着する。 ○個別の指導計画のデータを通知表へ効果的に活用する方法及びシステムを検討する。 ○授業案を示しての保護者への授業参観を各学部年間1回以上実施する。	PL: 教務主任 SL: 教務副主任
<b>2 チームティーチングによる複数児童生徒の効果的な実践</b> a 授業の情報共有と分担・協力の徹底 b 指導案→授業→記録→授業分析を通じた実践事例の作成	a 全題材の事前・事中・事後の共通理解の徹底 b 各学部10事例以上作成	○指導の手引きを活用して指導計画を作成し、授業実践をとおして、授業における情報共有と分担・協力のあり方を学部ごとに整理・検討する。	○8月までに各学部において、授業の情報共有と分担・協力の方法について検討し、整理する。 ○2学期より各学部で整理した授業の情報共有と分担・協力の方法を実践に生かすとともに分析見直しを2月までに行う。	PL: 研究主任 SL: 研究副主任		
		○指導案審議(事前研)→授業(実践)→記録(振り返り)→授業分析(事後研)をとおして各学部ごとに実践する。			○8月までに各学部で授業内容及び指導グループを決定する。 ○2学期中に指導案審議(事前研)→授業(実践)→記録(振り返り)→授業分析(事後研)の流れに沿って、チームティーチングの実践を各学部10例以上行う。	PL: 研究主任 SL: 研究副主任
<b>3 一人一人の児童生徒の実態やニーズに応じた健康・安全・衛生の取り組みの強化</b> a 児童生徒の体力・健康の増進 b 学校内外の安全・防災に対する綿密な対応	a 年間個人目標の達成100%(2月末) b 教員等の確認(適宜)と声かけ100%	○児童生徒の体力の向上及び健康増進にむけて、指導の手引きを活用して児童生徒の発達段階に応じた目標を設定して取り組む。	○設定した目標や経過を掲示するなど見える化し、持続して取り組める環境を設定する。 ○家庭と連携した取り組みについて夏季休業中に整理し、2学期以降取り組み内容を紹介したり取り入れたりする。	PL: 体育科主任 SL: 各学部体育科		
		○児童生徒の安全のために、研修および緊急時のシミュレーションを実施する。			○緊急時の対応が迅速に行えるよう、年度当初に全教師参加の救急救命講習を設定する。 ○緊急時マニュアルに沿ったシミュレーションを年2回以上実施し、役割分担を確認するとともにマニュアル見直しを検討する。	PL: 保健主任・生徒指導主任 SL: 学部主事各学部保健及び生徒指導部員
		○緊急時、教室移動、指導中、昼休みなどにおける役割分担を計画し、実施する。 ○避難訓練を年間3回以上実施するとともに地域の方々と連携して防災に関する検討機会を設ける。			○学年及び学級会において、月案、週案、日案を作成する際に役割分担を明確にする。 ○防災委員会を年6回以上開催し、避難訓練実施後にマニュアルを検討したり地域の方々と連携した防災への取り組みについて話し合いをしたりする。	PL: 学部主事・各学部防災担当 SL: 学部副主事